

11 月理学部会合日誌

12 日 (月)	14:00~16:00	理学系研究科委員会
13 日 (火)	10:30~12:00	総合計画委員会
14 日 (水)	10:30~12:00	会計委員会
	13:30~15:30	教務委員会
	15:00~16:30	主任会議
16 日 (金)	16:00~17:00	学部自治会と学部長会見
19 日 (月)	12:30~14:20	学部長と理職の定例交渉
21 日 (水)	10:00~12:30	会計委員会
	13:00~16:30	教授会
22 日 (木)	1:00~	理系自治会と学部長会見

- i) 49 年度理学部規則の改訂について (12 月 14 日まで)
- ii) 第 3 学期一般教育科目を理学部専門科目として認定する内規の変更について
- iii) 49 年度授業日程案
- 6. ガイダンスブック改訂について (朽津教授)
- 7. 入試出題範囲について (佐藤教授)
- 8. 建築問題について (下郡山教授)
- 9. 総合計画委員会の改組について (学部長)
名称を将来計画委員会と改めることが了承され、新委員の選挙が行なわれた。その結果上位 6 位までの方に、理学部長が指名する人を加えて、新委員会がつけられることになった。
- 10. 教授会人事のあり方について (学部長)
- 11. 全国理学部長会議報告 (学部長)
- 12. 学内事情報告 (学部長他)
- 13. 来年度概算要求について
- 14. 地球物理学研究施設長選出に関する内規の変更の了承
- 15. 健康安全管理体制の整備について
- 16. 岩堀教授が教務委員長就任にともない会計委員を辞任された。後任として藤田宏教授が選出された。
- 17. 100 年記念事業企画委員会の招集について (大木教授, 今井教授)

教授会メモ

11 月 21 日 (水) 定例教授会
理学部四号館会議室

1. 前回議事録の承認
2. 人事異動等の報告・承認
3. 研究教育用部長保留金配分案の承認
4. 会計委員会報告 (田丸委員長)
 - i) 営繕関係部長保留金配分案の承認
 - ii) 設備更新費配分案の承認
5. 教務委員会報告 (岩堀委員長)

人 事 異 動

(助 手)

教室	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	助 手	今 村 峯 雄	48. 11. 1	転 出	原子核研究所へ
化 学	助 手	松 浦 博 厚	48. 11. 1	転 任	大阪大学より
化 学	助 手	竹 田 満 洲 雄	48. 12. 1	休 職	
化 学	助 手	卷 出 義 紘	48. 12. 1	採 用	

(講師以上)

教室	官職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
鉾 物	助教授	竹 内 慶 夫	48. 11. 1	教育職(一)1 等級(東京大学教授理学部)に昇任させる	

数 学	助教授	服 部 晶 夫	48. 11. 1	教育職(一)1等級(東京大学教授理学部)に昇任させる	
物 理	助教授	鈴 木 増 雄	48. 11. 1	東京大学助教授理学部に配置換する	物性研より

外国人客員研究員

教室 地 物	国 籍	氏 名	現 職	研究期間
	米 国	Harold Solomon	な し	48. 11. 9~49. 11. 8

11月海外渡航者

教室	職 名	氏 名	渡航先国	渡航期間	渡 航 目 的
物 理	教 授	飯 田 修 一	アメリカ合衆国	11. 4~ 11. 23	磁気国際会議出席並びに研究所, 大学にて研究連絡
物 理	教 授	山 口 嘉 夫	アメリカ合衆国 ドイツ連邦共和国 スイス	11. 7~49. 1. 15	ニューヨーク州立大学において高エネルギー物理学の研究およびドイツ連邦共和国電子シンクロトロン研究所およびスイス国セルン研究所において高エネルギー物理学の研究
地 質	教 授	立 見 辰 雄	アメリカ合衆国	11. 9~ 11. 20	アメリカ鉱床学会総会出席および巡検参加
物 理	教 授	久 保 亮 五	アメリカ合衆国	11. 24~ 12. 9	「自然科学 ユニティについて」の会議に参加並びに各大学において原子物理学, 統計物理学の研究のため
物 理	助教授	山 本 祐 靖	アメリカ合衆国	11. 7~ 11. 19	新方式による泡箱写真自動測定装置の共同開発
地 質	助教授	歌 田 実	大韓民国	11. 8~ 11. 13	韓国産カオリンの成因的研究
地 理	助教授	小 堀 巖	サウジアラビア	11. 8~ 11. 18	アシール地区の地域開発予備調査
地 質	助 手	杉 村 新	インドネシア マレーシア	11. 5~ 11. 24	ネオテクトニクス委員会・国際地球ダイナミクス第一作業部会・現地地殻変動シンポジウムに出席ならびにマレーシア国の大学において地質学に関する研究連絡
物 理	助 手	水 島 公 一	アメリカ合衆国	11. 5~ 11. 23	磁気国際会議出席並びに研究所, 大学にて研究連絡
人 類	助 手	鈴 木 正 男	ニュージーランド	11. 19~ 12. 19	第9回国際第4紀連合会議出席およびコングレスツアー参加
動 物	助 手	館 鄰	アメリカ合衆国 ブラジル カナダ	11. 28~ 12. 13	国際基礎生物学シンポジウム出席並びにアメリカ合衆国およびカナダの大学において生殖生物学に関する研究連絡

理学博士学位授与者

昭和 48 年 11 月 12 日付授与者

専門課程	氏名	論文題目
物理学	御牧 義	Zero-Crossing Intervals of Gaussian Processes (ガウス過程の零交叉間階)
物理学	佐野 尚武	金属ベリリウムの電気抵抗率の計算
物理学	田沢 輝武	二中心殻模型での核間ポテンシャル
生物化学	加治 和彦	Enzymatic studies on ciliary axonemes of <i>Tetrahymena pyriformis</i> (テトラヒメナの繊毛軸糸の酵素的研究)
生物化学	橋本 純治	リボヌクレアーゼ U ₁ についての研究
学位規則第 3 条 2 項該当	市村 輝宜	The life cycle and its control in some species of <i>Closterium</i> , with special reference to the biological species problems. (数種のミカヅキモの生活環とその制御, 特に生物学的種問題に関連して)

理学部長と学部学生 自治会との会見

11 月 16 日 理学部会議室において 理学部長と学部学生自治会との会見が午後 4 時 15 分より行なわれた。学部側出席者は植村学部長・下郡山・田丸両評議員・霜田教授外 2 名, 自治会側は中村委員長, 堤副委員長外 3 名であった。

かねて自治会側より呈出されていた議題についての理学部長の見解および説明は下記のごとくである。

1. 授業・演習の内容等については問題点を持つ学生が直接担当者と話し合うことが第一に望ましい。時間割の問題は技術的な問題があるが問題点は数務委に申し出るよう。学生カリキュラム委は自治会活動の一環であると考え。

2. 地鉦実習費についてはいろいろ複雑な問題が含まれており部長としては地鉦実習の教育上の重要性の点からこの問題に対処して来たし今後もその趣旨でとりくみたい。

3. 自治会への援助については部長としては基本的にはのぞましいこととは思わない。しかし実情に則した考慮はする。

さらに大学院入試問題は正式の交渉の事項としてはみとめられない, また地鉦実習費について部長は独自の立場から努力するむね, かさねて説明があり 5 時 45 分会見はおわった。

学部長と理職との交渉

11 月 19 日 (月) 12 時 33 分~14 時 20 分

出席者: 理学部側は学部長, 評議員, 事務長はじめ 7 名
理職側は委員長はじめ 17 名。

議題: 1. 厚生施設, 職場環境改善の件, 2. 5 号館問題, 3. 東大保育所に関する件, 4. その他。

はじめに理職新役員, 委員長田沢(生化), 副委員長及川(植), 書記長赤尾(教, 本日欠席)の紹介があった。

1. 化学館, 2 号館の休養室等の要求がのべられたが, これらはまず関係教室(化学, 2 号館長)で話し合うのがよいということになった。

2. 理 5 号館については, およその案が出た段階で, 図面が確立するところまでいっていない。現在の案では理学部と大学本部とが一つの建物に入る予定である。部屋の細かい具体的な使い方はもっと後の問題であるが, 全体的にかなり窮屈である。厚生施設等はまだ少し具体的になった段階でとりあげた方がよいが, 理職でも 5 号館問題の専担者をおき, 理学部の当該問題担当者と適時連絡し合ってはどうかとの説明が学部長よりあった。

3. 保育所の必要性について職員が説明し, 学部長に, 機会のあるごとに強調してほしいと要望した。学部長は, 事情は理解したと答えた。

4. 12 月 4 日に予定されている日教組のストに関して, 理職よりつぎの要求がのべられた。

1) 基本給 5% 増, 年末一時金 3 カ月分, インフレ手 1 当カ月分, 定員・予算増の要求の正当性を認めよ。

- 2) これが妥当であることを総長に上申し、実現のため総長に働きかけること。
- 3) 12月4日に理職がストをした場合、処分を行わないこと。
- 4) 公務員のストが正当であることを認めよ。
これに対して学部長はつぎのように答えた。
- 1) 物価の値上りで生活の苦しいことはわかるが、この数値が正当か、また予算措置、給与体系上どうなるか等の点ははっきりわからない。
- 2) 総長も実情は十分理解していると思うが、組合の希望はつたえておく。
- 3) 処分については、前もって約束することはしない。学部長としては現行法規に則して措置をとるが、裁量にまかされている部分は学部長の良識に従って判断する。組合においても良識ある行動をとるよう期待したい。
- 4) 労働問題の専門家でないからわからない。しかるべき公的審議機関等の公式見解ができれば、それに従いたい。

理学部長（代）と理学系大学院 自治会との会見

11月22日、午後1時より理学部会議室において理学部長代理と院生自治会の会見が行なわれた。学部側の出席者は部長代理として下郡山評議員、江上・小柴協議員他2名で院生側は山川委員長、西副委員外数名であった。

議事はかねて院生側より提出され予備交渉により合意された議題についてすすめられた。学部長代理の説明および意見は次のごとくであった。

1. 新館について：計画は未だに未確定であり49年度中に着工されればよいと考えられている。本部（約9000m²）理学部（約7400m²）が一むねの建物に入る予定、移転は目下のところ数学・地質・鉱物の3教室が予定されている。ただ一部面積は旧館に残ることになる。

本部との関係は非常扉等をのぞいては別になるようにしたいと考えている。

厚生施設等は当該教室の問題であり、院生研究室等は各課程の問題であると考え。化学、1、2号館の改築

は行なわねばならぬが全体計画の完了には10年位かかることとなろう。また化学教室の当面の安全問題は同教室で考えることである。

2. 戸締りに関して：1号館の戸締りに関連した問題は物理教室主任との問題である。院生自治会役員に対しては室借用証を入れれば学部自治会役員と同じ扱いとなるであろう。宿直が廃止されるのは、職員の間で廃止の希望が多いからである。

3. 院生の生活等に関する問題：ゼロックスのコピー代等については各教室ごとに話し合うべき問題である。研究生の学割発行については調査する。

院生の野外研究については学部学生の場合と同じようなことができるかもしれないが、学会旅費の問題は各方面で努力がなされているがなかなか難しいと状況にある。

育英会の返還免除職の範囲を拡げることについて、今のところ小学校教諭になっている人は稀なのではないかと思う。また高校非常勤講師については猶予はともかく免除職になり得るか否か疑問に思う。

研究災害について全額国庫負担とすることは現在のところでは困難なことと考えている。

4. いわゆるオーバードクターの問題：マスターが定員に満たないとき再募集をする考えはない。ドクターコース修了者の追跡調査は行なわれつつある。各専門分野で事情が異なる面もあるので、短期間の具体策としてはそれぞれの事情に応じたきめのこまかい配慮が必要であろう。

さらに院生側よりオーバードクター問題の重要性が発言され会見は午後3時ごろ終了した。

編集後記：早いもので広報の編集をお引受けしてから本号で7冊目になりました。年の瀬をむかえ、御協力を頂いた執筆者の方々の御一人ずつの顔が目にかびます。本号執筆者のうち、岩生先生は、本年3月退官された最も若い名誉教授、片倉もとこさんは、理系大学院博士課程（地理）在学中です。岩生先生のクリスマス・カードと共に、旧約の予言者の言葉を以て年末の御挨拶にかえます。

“斯くかれらはその剣をうちかへて鋤となし、その槍をうちかへて鎌となし、国は国にむかひて剣をあげず、戦闘のことを再びまなばざるべし”（イザヤ書IIの4）

編集：〔小堀 巖（地理） 理2号館205号室 内線6449〕
〔清水 忠雄（物理） 理1号館372号室 内線2783〕